

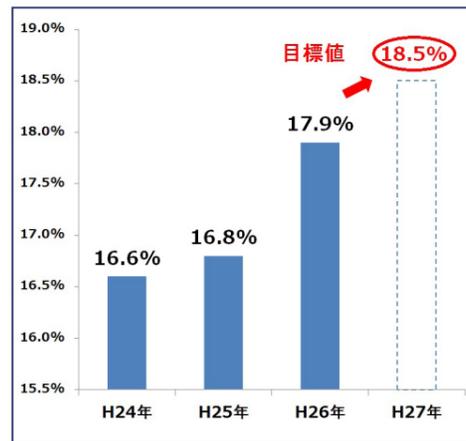


## 高知大学女性研究者比率

米国の女性研究者比率の平均は34.3%（平成24年度）でした。一般的に米国の大学ではマイノリティに対する配慮から積極的改善措置（アフーマティブ・アクション 注）が講じられています。

日本の場合、平成24年度における全国の研究機関（企業、非営利団体、公的機関、大学等）の女性研究者比率の平均は14.4%でした。平成15年度にはこの比率が11.2%であったことを考えると、徐々にではありますが女性研究者が増えていることがわかります。しかし、特に自然科学の分野では女性研究者の比率が低いことが指摘されており、なかでも工学の分野における女性研究者比率は5%（大学等では9.2%）と最も低くなっています。

高知大学の女性研究者比率は平成24年度の16.6%から平成26年度の17.9%に増加しました。高知大学が平成24年度に採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」では、平成27年度に18.5%に達することを目標としています。女性が働きやすい、働きたいと思う職場をデザインしていくことが、男性にも働きやすい職場環境の整備につながると思われま。そのために男女共同参画推進室では、仕事と生活の両立支援、職場の環境改善、意識改革を推進しています。



注 日本では類似の概念でポジティブ・アクションを使用することがあります。ポジティブ・アクションについては、例えば、「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約（女子差別撤廃条約）」の第4条1項は、「男女の事実上の平等を促進する暫定的な特別措置をとることは、この条約に定義する差別と解してはならない。ただし、その結果としていかなる意味においても不平等な又は個別の基準を維持し続けることにはならず、これらの措置は、機会及び待遇の平等が達成されるときに廃止されなければならない」としています。また、日本の「男女共同参画社会基本法」（平成11年法律第78号）は、第八条で、国は「男女共同参画社会の形成の促進に関する施策（積極的改善措置を含む）を総合的に策定し、及び実施する責務を有する」としています。

## 両立コンシェルジュデスクのお知らせ

両立コンシェルジュデスクは、高知大学の育児・介護等と仕事の両立相談窓口です。仕事との両立のために悩んでいることや困っていることがあるとき、育児情報や介護情報が欲しいときにご相談ください。岡豊キャンパスや物部キャンパスへの出張相談にも対応します。

相談専用メールアドレス ⇒ [conciierge@kochi-u.ac.jp](mailto:conciierge@kochi-u.ac.jp)

こんなときにご相談ください

- ・大学近辺の保育所やベビーシッター情報がほしい。
- ・親の介護と仕事の両立について困っています。
- ・育児休業を取得したいけれど、職場の理解が得られるだろうか。
- ・学会等でイベント託児を実施したい。



## おしらせ

## 研究職キャリア相談コーナーのお知らせ

男女共同参画推進室では、研究職を目指す学生のキャリア相談を受けつけております。

こんなときにご相談ください

- ・アカデミック・ポストを目指すには？
- ・研究室の環境について
- ・研究職に進もうか悩んでいる

## 力仕事サポーター利用者の募集

- ＊募集対象＊ 高知大学に勤務する大学教員・研究員の女性で、ライフイベント中の者。
- ＊内容＊ 個人の研究のために、実験等で使用する重い機械等の運搬・操作の補助、書籍運搬等が必要な際に、短時間の「力仕事サポーター」が随時支援を行います。

## 第6回中国四国男女共同参画シンポジウムのお知らせ

日 時：平成26年11月28日（金）13:00～17:05  
 場 所：高知大学朝倉キャンパス メディアの森6Fメディアホール  
 テーマ：ギアチェンジ！共に働く時代の男女共同参画社会  
 ～「男働き」社会の見直しと女性のキャリア形成のこれから～

## 高知大学 男女共同参画推進室 しあわせ ぶんたん

平成26年9月 発行

〒780-8520 高知市曙町二丁目5番1号 国立大学法人 高知大学 総合研究棟3階

【☎】088-888-8022【☎】088-888-8023【✉】sankaku@kochi-u.ac.jp【🌐】http://www.kochi-u.ac.jp/sankaku/



本学での男女共同参画の推進やワーク・ライフ・バランスについて、学部長にインタビューを行いました

## 吉尾 寛 人文学部長



A1 私の妻も研究者です。母の支援はありましたが、育児休業を取得できなかったため、子育てには苦労しました。現在、若い人たちが育児休業を取得することができるのは良いことだろうと思います。

A2 職場の環境整備は大事だと思います。人文学部の親睦会には家族やお子さんが一緒に参加しています。夕方学童保育所から迎えたお子さんを連れて会議に出ることも可能にしています。中国の研究所に出張していた頃、職員が毎日夕方子どもを連れて来て、職場に優しさを感じられたことを思い出します。今は私も親の介護や定期健診のため職場を離れる時間が必要で、介護のための取組も必要だと思います。大学は男女共同参画が進んでいる組織ですので、学外の地域社会にも取組が広まって行って欲しいと思います。

A3 夫婦によって育児・家事の分担をはっきり決めている場合と、その時の状況に応じて互いに協力している場合等があると思います。また仕事と研究の両立についていろいろなケースに即してご相談にのりますので、遠慮なくいらしてください。



## 藤田 詠司 教育学部長

A1 私の妻も非常勤で働いていますので、家事は分担しています。今日は私が夕食当番ですので、家に帰ったらハンバーグを作ります。また仕事を遅くまでしないようにしており、ワーク・ライフ・バランスについて意識的に改善するようにしています。

A2 教授会については、簡潔に済ませて早く終わらせるようにという共通理解を皆で持つようにしています。会議の際に子育て中の教員が事情のある場合には、配慮するようにしています。教育学部は女性教員が多く、教授にも女性がいますので、男女共同参画について相談できる関係がある程度できていると思います。育児だけではなく、介護についても相談したり、話し合うことのできる職場環境だと思います。

女性教員の採用に関しては、優秀な女性が増えていますので、特に性別に配慮をしていなくても女性教員が増えています。公募への女性研究者の応募については歓迎したいと思います。FDなどをとおして、男女共同参画に対する意識をさらに高めていきたいと思っています。

A3 女性研究者の方は、相談したいことがありましたら、私のところまでいらしてください。必ずお力になります。







#### 第4回ワーク・ライフ・バランス講座「楽しむパパで子どもが育つ～父親の子育ては社会を変える～」

男女共同参画推進室では、平成26年6月4日に第4回ワーク・ライフ・バランス講座「楽しむパパで子どもが育つ～父親の子育ては社会を変える～」を開催しました。

冒頭、男女共同参画推進室の廣瀬淳一室長より、「大学で実践し、教育に活かし、社会に広げる」ことを目的としている高知大学の男女共同参画の基本理念・方針とワーク・ライフ・バランス講座の趣旨説明がありました。

講演会では、株式会社こうち暮らしの楽校の代表取締役社長で、父親の子育てサークル「こうちパパ楽会」代表の松田高政さんに、「楽しむパパで子どもが育つ～父親の子育ては社会を変える～」というテーマで講演して頂きました。

松田さんは、妻が育児休業を取得したことで、自分は仕事に専念できると考えてしまったことが、妻の育児負担や悩みを大きくしてしまったと反省したそうです。それから、父親がもっと積極的に出来ることをしようと、こうち男女共同参画センター ソーレの支援を受けながら友人と一緒に活動を始めたことが「こうちパパ楽会」が生まれたきっかけでした。

講演では、松田さんがこれまでにいったイベントが紹介されました。子どもが喜ぶパン作り、竹のおもち作りなど多岐にわたる活動が行われました。イベントで大切にされたことは、「こうちパパ楽会」の名前のとおり、父親が楽しんで、そして学べること。松田さんは、父親が楽しめることが、活動を継続するためには大切だと言います。

現在は、「こうちパパ楽会」のメンバーも増えました。メンバーには様々な技能を持つ、様々な職業の父親がいるので、メンバーが講師を務めてのセミナー、バーベキューやアウトドア遊びを無理のないペースで続けているそうです。

こうしたイベントに参加した父親からは、「子どもとこんなに長い間遊んだのははじめて」、「男性同士だと、気兼ねすることなく親子で楽しめた」、「お母さんにも評判がいい」などの声が寄せられたという事です。

松田さんは、男女共同参画の視点は、家庭、職場、地域においてとても大切。食事や人生もバランスが必要で、バランスが偏ると人も職場も社会も病気になるかもしれない。男女共同参画はすべての老若男女、地域をじわじわ元気にする漢方薬のようなもの。まずは男性から変わる、即実践するという気持ちで、私もOK、あなたもOKを心掛けて、高知を暮らしやすく、活力あふれる地域にしていきたいと、と会場の参加者に呼びかけました。

同講座は、こうち男女共同参画センター「ソーレ」のソーレサポーター講師派遣制度の協力を得て実施致しました。



#### 第5回ワーク・ライフ・バランス講座「負担をためすぎない介護」

平成26年7月16日に、第5回ワーク・ライフ・バランス講座「負担をためすぎない介護」を開催しました。

小島優子男女共同参画推進室特任助教が、「介護の経済的負担及び高知大学の介護制度」について講演しました。介護にかかる期間から介護費用を算出すると、5,299,000円になり、介護には経済的に負担がかかることから、どうにかして仕事との両立を図ることが必要であることを指摘しました。

医療学系連携医学部門の大浦麻絵助教より、「介護者が負担をためすぎないような介護運営について」の講演がありました。高知県は、老年人口割合が全国2位であるのに対して、生産人口割合は全国46位であることから、介護をめぐる状況はたいへんシビアです。在宅

介護成功の秘訣は、在宅介護を支える介護者の負担軽減をすることであることが紹介されました。

外国の事例から学べることは、介護者を守るためには、介護者自身の休息ケア、および介護者の生活の質への視点が必要なことです。それは、介護者だけでなく、被介護者を守ることに繋がっていきます。負担をためすぎない介護を行うためには、介護を行う人が誰であるか、そしてどのような介護を運営するかといった状況に応じて、介護サービスを選択することが重要です。その介護サービスを有効に利用するためには、生活が変われば絶えず見直すことが大切であることが提示されました。



#### 「教員と教員を目指す人のためのデートDV研修講座」

男女共同参画推進室では、平成26年6月18日に「教員と教員を目指す人のためのデートDV研修講座」を開催し、62人の参加者がありました。この講座は、こうち男女共同参画センター ソーレが、平成24年に開発したデートDV啓発研修資料を多くの人に活用してもらうために開催しているものです。講師の山中千枝子氏は、公立中学校、(財)高知県人権啓発センターを経て、現在は千斗枝グローバル研究所代表として、研修、講演、啓発活動を担当されています。

まず、恋人に「私以外の人と話をせんとって」と言われたらどうするかについて、賛成と反対に分かれて、ディベートを行いました。賛成意見としては、「本やエッセイを読んで学ぶこともある」などがありました。それに対して反対意見としては、「束縛することによって対等な恋愛をすることはできない」、「恋人の自由を奪うのはおかしい」などがあり、白熱した議論が展開されました。次にディベートで議論した「私以外の人と話をせんとって」は、デートDVかどうかについてグループに分かれてディスカッションし、デートDVだと思ふことを模造紙に書きこみました。例えば、連絡を強要すること、「LINE すぐ返してね」「今から来て」「すぐ来て」と言うことなどがデートDVではないかという意見が出ました。

最後に山中先生からデートDVについて話がありました。日本社会には家父長制が残っており、人間関係の中に支配・服従関係があると、DVが発生します。しかし、自分の言いなりになるように人を支配するのは、男女共同参画の関係ではありません。力や支配・服従ではない、愛による関係を築く必要があります。そのためには「俺の言うとおりのいいや」「私の言うとおりのいい」という関係をやめる必要があります。自分が愛されていなければ愛することはできません。皆が幸せにならなければ、対等な男女共同参画は成り立ちません。民主的な世の中を作っていきたいということが、山中先生が参加者に伝えたいことでした。



#### 企画展示「私以外の人と話をせんとって」はデートDV? ～「デートDV研修講座」のグループワークから～



平成26年7月1日から7月18日まで、デートDV研修講座のグループワークで参加者が作成した成果の展示を行いました。同時に、デートDVを受けてしまったり、暴力をふるってしまったり、友達からデートDV相談をされたときにどうすればよいかについて学べるデートDV啓発パネル「それってラブラブ……?」(公益財団法人 こうち男女共同参画社会づくり財団作成)も展示しました。デートDV研修講座の参加者が講座を振り返り、展示を見る人がデートDVについて考えるきっかけを作りました。

#### パネル展「女性と働き方」

平成26年6月2日から6月30日まで、こうち男女共同参画センター ソーレの協力により、パネル展「女性と働き方」を開催しました。多数の学生や教職員がパネルを通して、女性がおかれている状況や、ワーク・ライフ・バランスについて学びました。

